

港区立御成門小学校
平成30年度 授業改善推進プラン

<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・都・区教育目標 	教育目標 ○よく考え進んで学ぶ子 ○力を合わせやりとげる子 ○心も体もたくましい子	[児童の実態] ・明るく素直であり、上学年は下学年に優しく親切に接する。 ・論理的に考え、その考えを説明したり文章にまとめたりする力に課題がある。 [地域の実態] ・教育への関心が高く、古くからの地域の行事、地域活動を継続的に行っている。 [保護者の実態] ・「確かな学力を身に付け、心豊かな人間に育てほしい」という願いをもって いる。
---	---	--

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

☆きめ細かな学習指導を実践し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決することなどを通して、思考力・判断力・表現力、その他の能力を育むとともに、児童一人一人に応じた確かな学力を身に付けさせる。

☆授業時数を確保するとともに、指導計画を見直し、児童が無理なく意欲的に学習に取り組めるようにする。

☆児童の実態に応じた多様な教育活動を通して、児童一人一人に「わかった」「できた」体験を積ませることを通じて意欲を育てるとともに、一つ一つの課題に丁寧に取り組みさせることを通じて、最後までやり遂げる体験を日常的に積ませていく。

各教科の指導の重点を確実に身に付けさせるため次の取組を行います。



	教科名	取組内容		生活指導の重点
道徳教育の指導の重点 ・生命を尊重する心を基礎とし、社会生活に必要な規範意識をもたせ、道徳的な心情、判断力、態度を養う。 ・道徳的価値の自覚を深めるため、指導資料の工夫をする。また、体験的な活動を取り入れ、日常生活につなげていく。 ・家庭や地域社会と共に児童の心を育てる教育の充実を図る。 総合的な学習の重点 ・各教科の横断的縦断的な取り組みを計画する。 ・追究課題を明確にして児童自らが計画し方法、考察まで取り組むことができる力を育成する。 ・追究した内容をわかりやすく表現する力を育成する。	国語	・発達段階に応じた話型や話し合いのルールを指導し、自分の考えを整理してから発表する習慣を付ける。 ・題材や条件を工夫して、「書くこと」の指導を積み重ねる。観点を明示し、自分で推敲する力を身に付ける。 ・「朝読書」を活用したり、読書活動を取り入れた単元を計画したりして、読書の習慣を定着させる。 ・叙述に即して文章を読み取り、それについて自分の考えをまとめる学習を積み重ねる。 ・辞書を引く習慣を身に付けさせ（3年生以上）語彙を増やす。	生活指導の重点 ・全教育活動を通して児童理解に努め、児童一人一人の内面に関わりながら、共感的理解に基づいた生活面の指導を行う。 ・基本的な生活習慣の確立を図り、児童自らの言動について、善悪を主体的に判断し、自らを律して行動できる児童を育て落ち着いた学校を目指す。 ・学校生活におけるアンケートを一月に一回実施し、児童相互の人間関係を適切に把握するとともにいじめの未然対応に努める。 ・特別支援委員会との連携を図り、配慮が必要な児童の心身の状態を十分に把握し適切な支援及び、支援体制を整える。	進路指導の重点 ・全教育活動を通して児童が自らの将来に向けて自己実現を図ろうとする態度を育成する。
	社会	・児童自らが学習課題を設定できるようにするために、導入時に提示する資料を十分吟味する。 ・考えるべき内容を明確にして追究活動にあたらせる。 ・教科書や資料集、地図帳を活用する学習場を積極的に設定し、資料を適切に読み取る力を身に付ける。 ・集団で思考を練り上げる話し合いの場を設ける。		
	算数	・習熟度別指導を活用して、児童の学習状況に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・演算決定の根拠を、図を用いて説明する活動を指導計画に位置付ける。 ・自分の考えだけでなく、参考になりたい考えや表現もノートに記録する時間を確保する。 ・東京ベーシック・ドリルや復習プリントを活用し、基礎的・基本的な内容の確かな定着を図る。 特に補充的な指導については、つまづいている箇所に戻り既習事項の定着を図る。		
	理科	・体験活動を重視し、児童が意欲的に取り組み自分なりの考えをもてるようにする。 ・実験、観察後の考察の時間を十分確保し、思考を整理する場を設ける。 ・科学的な知識を定着させるために、科学用語を用いた説明、話し合い活動にくり返し取り組ませる。		
	生活	・学習の対象になる物を児童の周りに置き、いつでも学習対象に関われるようにする。 ・「見て」「聞いて」「さわって」何が分かるなどの視点を示し、様々な気づきが生まれるようにする。 ・体験したことを共有できる機会や自分の生活体験と結びつけて考えたことを発表できる機会を多くし、生活視野を広げられるようにする。		
	音楽	・グループ活動を工夫し、友達同士で助け合う場を設定し、表現、鑑賞に関する関心を高める。 ・児童が興味をもって取り組めるような曲を選び、個々や全体で表現の工夫することを意識させる。 ・技能を高めるために、より効果的な学習形態（個人、グループ、一斉）を考える。 ・器楽では、一人一人の課題を明確にして、スモールステップで練習を進められるようにする。		
	図工	・主体的に活動できるように題材を工夫し精選する。また、材料と関わる機会を多く設定し意欲を高める。 ・作品発表会や作品展など互いのよさを認め合える活動の機会をふやし、自己肯定感を高める。		
	家庭	・よりよい工夫を考える機会を多く設定し、その考えを発表するなどして他者と共有するようにする。 ・手縫いの課題を設定し、基本的な技能の定着を図る。		
	体育	・具体的な運動のめあてを児童一人一人に設定させ、めあてを達成させることを通じて、運動の楽しさを味わえるようにする。 ・授業で体づくり運動を継続して行ったり、朝運動を計画的に実施したりすることを通して、体力の向上をめざす。		
	国際	・N.T.とHTの連携を深め、発達段階に応じたねらいを明確にした授業を展開する。 ・音声、絵、文字による手がかりの提示や個別支援により、児童の意味理解を促す。 ・振り返りの時は、「楽しかった」だけでなく何を学習したのかを理解して、振り返りができるようにする。		

本校の授業改善に向けた視点				
教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○授業前に、朝の運動（毎週 木曜日）、朝の読書タイム（火、金、土曜日）を設定する。 ○土曜授業日に、セーフティー教室や児童主体の活動（1年生をむかえる会・フェスティバル・地域清掃・6年生を送る会）などの行事を計画的に実施し、年間の授業時数を確保する。 ☆ASEAN諸国との交流会は、学級単位で全学年で実施する。	▲主体的・意欲的に学習が継続できるような教材・教具の工夫・開発に努める。 ▲ICTを活用した授業を計画・実践する。 ○体験的な活動や問題解決型学習を展開する。 ○少人数コース別学習を実施し、一人一人の疑問や追究方法に応じながらきめ細やかな指導を図る。 ○文章を読み解く力を伸ばすために言語に着目し、その言葉から考えたことや感想を述べ合う活動を指導計画に位置づける。 ○意欲的に取り組ませるため、単元終了時のゴールイメージをもたせ、学習計画を明示する。	○児童一人一人の疑問や考え、学習内容の習得状況を丁寧に見取る。 ○授業観察の評価、外部評価をもとに授業改善を図る。	▲獲得した知識・技能を活用する学習活動の工夫を図る。活用力を高めるために思考力・表現力を育成する授業を積み重ねる。 ▲追究活動後に自ら考えたことや感想などを交換し合う場を意図的に設定し、言語活動を充実させる。 ☆自分の考えをもち、互いの思いや考え、良さを伝え合うことで、友達と学び合う楽しさを知る活動を設定した授業を構築する。そのために、分科会ごとの研修、体研究会を計画的に実施する。 ○研究授業やOJT等の自主研修等を通して教員の授業力を高める。	▲地域の人材や教材を生かした授業を行い、問題解決力や思考力、表現力を育てる。授業協力者の体験談や思い、願いなどを聞く場を設け、自分を振り返り、自分の生き方・考え方に生かすことができるようにする。 ▲学校公開、道徳授業地区公開講座を充実させ、学校の教育活動に対する保護者、地域の理解を図る。 ○年2回教育アンケートをとり、考察し、教育活動の改善に役立てる。

☆→今年度からの取組み ○→定着・継続している取組み ▲→活性化が必要な取組み